

### FEC: 為替予約システム

- 為替予約取引を登録、引当、実行、評価するシステムです。
- Plaza-i 購買管理システム、債権管理システム、債務管理システムと連動します。

### 主なメニュー

- 為替予約締結
- 為替予約引当、延長、前倒し、キャンセル
- 為替予約伝票照会、印刷
- 為替予約反対実行
- 為替予約時価登録
- 為替予約残高明細表
- 為替予約期日別通貨別集計表

### 為替予約取引の登録

- 為替予約取引の締結、延長、前倒、実行、キャンセルなどの基本処理が可能です。
- 為替予約を締結した場合に、一つの為替予約伝票として登録できます。
- それに対し、延長、前倒、実行、キャンセルなどの行為を登録することにより、顛末管理を行います。
- これらの行為はそれぞれ取引明細(履歴データ)として保存されています。
- これにより、特定の会計期間末時点の為替予約残高を報告することが出来ます。

### 登録した為替予約取引の利用

- 特定の売買取引に対し、締結した為替予約取引を引当し、かつ、実行することが出来ます。
- 引当 : 例えば一つの予約を複数のインボイス

で利用する場合、実行時点で予約金額が不足しては困ります。このような場合、引当処理をすることができます。

- 実行 : 輸入であれば実際にドルを支払う際に、対応する為替予約を履行しドルを予約レートで購入するわけですが、実行とはこの契約履行行為を示します。

### PUR 購買管理からはダイレクトに引当可能です

- Plaza-i 購買管理システムでは、本システムの引当画面を開けなくても、インボイス登録(仕入伝票入力)画面からボタンをクリックすることによりダイレクトに引当処理することが出来ます。
- 売買取引と為替予約の引当は多対多の関係を取ることが出来ます。つまり一つの予約を複数のインボイス(債権債務取引)で利用することも出来れば、一つのインボイス(債権債務取引)に複数の予約を引き当てることも出来ます。

### 自動実行と手動実行が可能です

- 引当処理された予約取引は、ARS 債権管理システムの入金承認、もしくは、APS 債務管理システムの支払確定処理によって、自動実行されます(引当実行と称しています)。
- 実行時、すなわち入金承認、支払確定処理により、実行取引という為替予約取引明細が自動生成されます。
- 予約金額残高が実行取引により取り崩されゼロとなるとその予約は自動的に完了済となります。
- 手動実行とは未引当予約取引の決済、即ち次に説明する反対実行のことでです。

### 未引当予約取引は反対実行します

- 売買と関連しない予約取引、もしくは、売買で引当しきれなかった予約取引はこの反対実行メニューから決済処理を行います。
- 例えば、輸入関税は、元となる貨物の外貨金額を輸入到着時点の直レートで換算した円貨額に対して関税率を乗ずることによって計算されます。
- つまり円建て取引ですが、発注時と到着時は通常1ヶ月以上の開きがありますので、輸入者にとっては為替リスクが発生します。いくら関税が掛かるか、外貨建てでは確定するが、円では確定しないわけです。
- そこで貨物外貨金額に関税率を乗じた外貨関税額について予約を行い、輸入時点で実行し、その外貨で円を購入することにより、為替リスクをヘッジすることが出来ます。これを反対売買(反対

実行)と称しています。

- このように反対実行メニューから売買とは関連しない為替予約を実行することができます。

## 原則法に則った会計処理が可能です

- Plaza-i SOE 販売及び PUR 購買システムでは、売上、仕入を為替予約の有無に拘わらず、原則通り、計上時点すなわち売上日、仕入日の直レートにより発生債権債務額を換算します。
- 一方、ARS 債権、APS 債務管理システムでは、原則通り、未決済の残高については会計期間末に期末レートで換算を行い、決済時点では決済時点(支払日、入金日)の直レートにより換算を行います。
- 差額はそれぞれ未実現、実現為替差損益として仕訳されます。
- さらに既に述べたように、為替予約が引当されている債権・債務の決済処理(実行処理)においては、債権・債務管理システムが自動的に引当部分に対し予約レートによる入出金額を計算し(未引当部分は直レート)、計上金額との差額を実現為替差損益として処理します。

## 為替予約時価登録

- 原則法に則り、特定会計期間末の未決済為替予約残高を時価評価するために、為替予約時価登録メニューを利用して一つ一つの予約に対して時価を登録します。
- また、会計期間末の予約残高を、引当済、予定あり(未使用)、予定無しの区別で一覧表を出力することが出来ます(為替予約残高明細表)。

## 購買プロジェクトとの連動

- 購買プロジェクトオプションを採用している場合は、決済時にシステムが自動計算した為替差損益を購買プロジェクト別に転送します。
- 転送の際に為替差損益は、下記の区分で転送されます。  
予約為替差損益: 予約レートー決済レート  
実現為替差損益: 決済レートー計上レート  
これにより実質的に、当該購買取引は計上レートではなく予約レートにより換算されたことになり、財務会計上は原則法であっても、業務(管理)損益上は契約船積別(プロジェクト別)に振当処理をしたのと同じ効果を得ることができます。
- また、反対売買においても、プロジェクトコードを指定することにより、プロジェクト別に為替差損益を計上することが出来ます。